CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	日本生命熊本ビル新築工事	階数	地上13F
建設地	熊本県熊本市中央区辛島町5-7、5-	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	930 人
気候区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所,物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月　予定	評価の実施日	2021年3月1日
敷地面積	2,129 ㎡	作成者	守屋佳代
建築面積	1,598 ㎡	確認日	2021年3月1日
延床面積	19,174 ㎡	確認者	浅利徳男

■ 外観

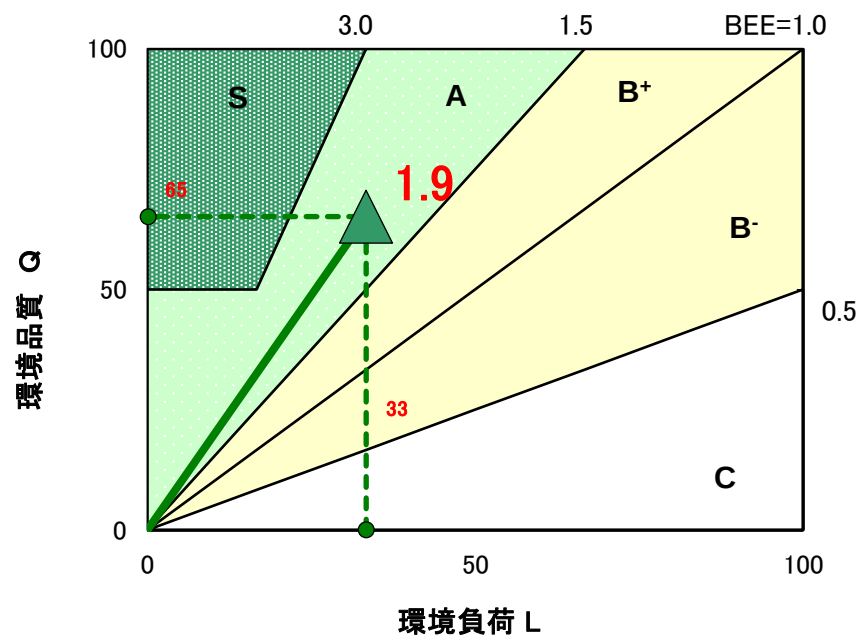
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

★★★★☆

BEE = 1.9

■BEE（環境効率） = Q（環境品質） / L（環境負荷）



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

☆☆☆

排出率
78%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
92

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	96.1
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	76.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	87.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	102.7

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

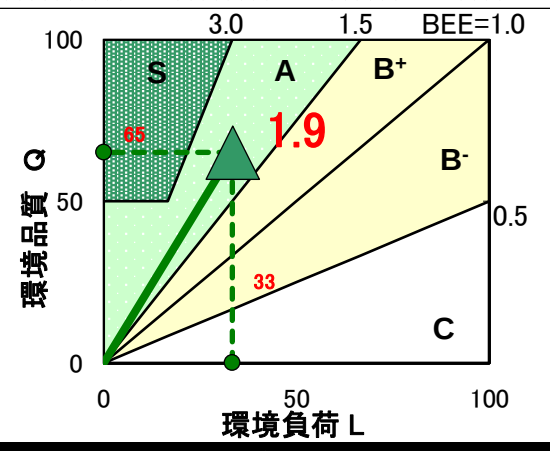
建物名称	日本生命熊本ビル新築工事	階数	地上13F
建設地	熊本県熊本市中央区辛島町5-7、5-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	930 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月　予定	評価の実施日	2021年3月1日
敷地面積	2,129 ㎡	作成者	守屋佳代
建築面積	1,598 ㎡	確認日	2021年3月1日
延床面積	19,174 ㎡	確認者	浅利徳男

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

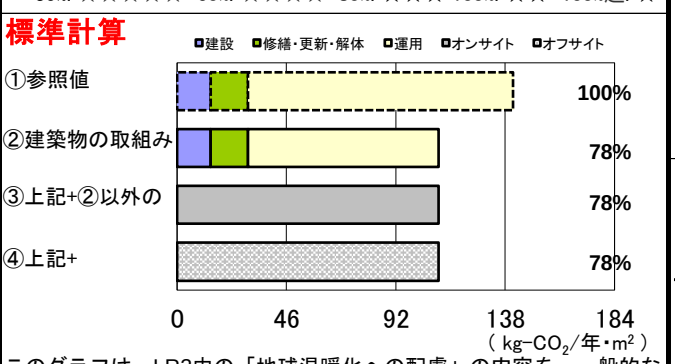
BEE =1.9

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



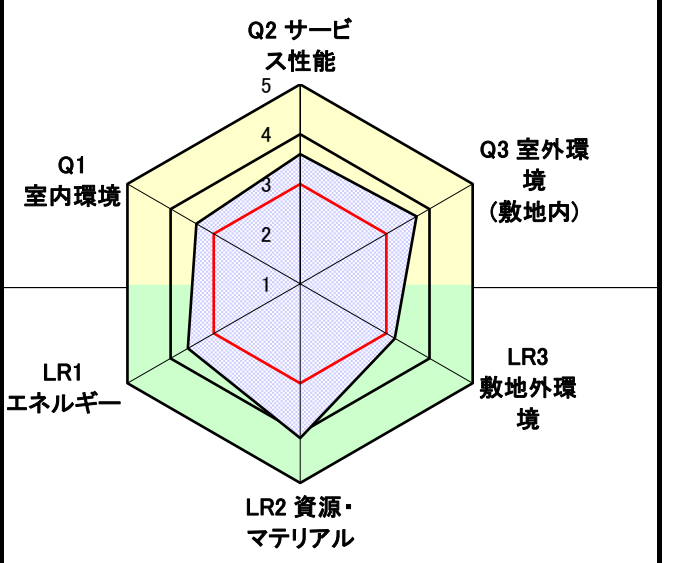
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

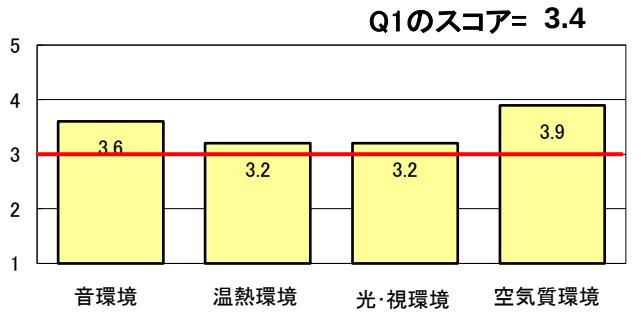
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



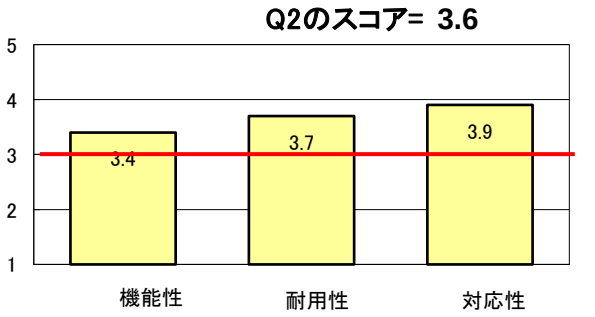
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.6

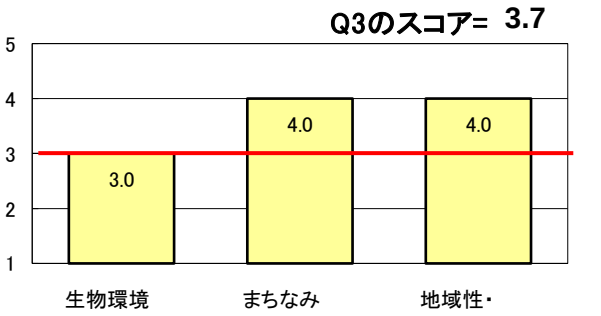
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.4



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.6

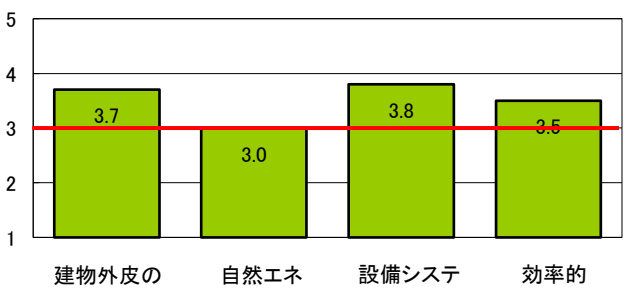


Q3 室外環境(敷地内)　Q3のスコア= 3.7

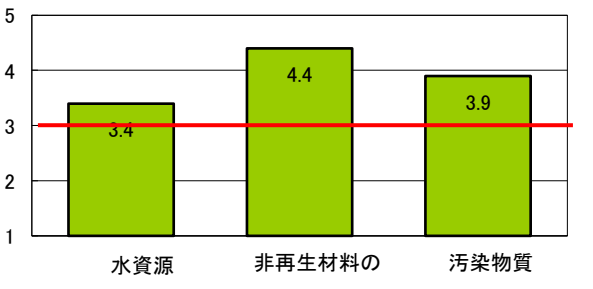


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.6

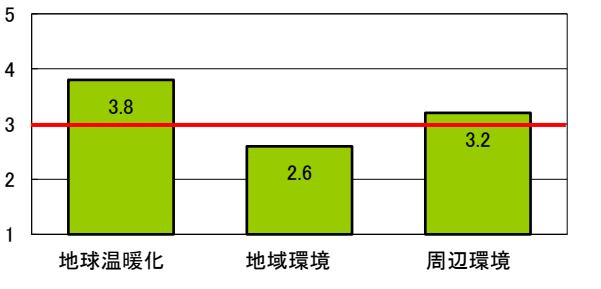
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.6



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 4.1



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.2



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 92

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 96.1

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =76.2

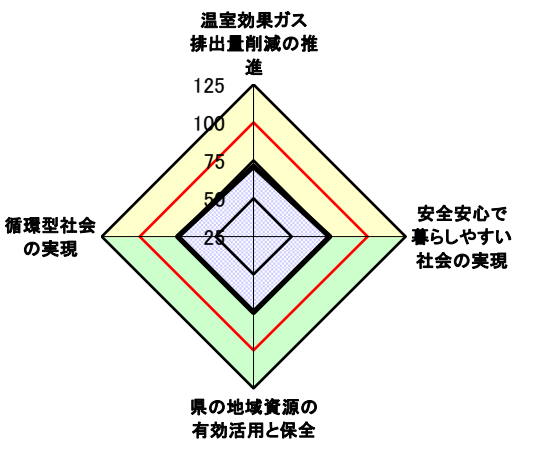
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 87.5

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 =102.7

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
日本生命熊本ビル新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**3.6**
Q1 室内環境			**0.39**		**-**	**3.4**
1 音環境		**3.6**	0.15	-	-	**3.6**
1.1 室内騒音レベル		**3.0**	0.40	-	-	
1.2 遮音		**4.2**	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	遮音性能T-2以上	5.0	0.61	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.39	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音	床、天井の二面に吸音材を採用	**4.0**	0.20	-	-	
2 温熱環境		**3.2**	0.35	-	-	**3.2**
2.1 室温制御		**3.4**	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	外皮性能の高い仕様(壁、窓)を採用	5.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		**3.2**	0.25	-	-	**3.2**
3.1 昼光利用		**1.8**	0.30	-	-	
1 昼光率		1.0	0.59	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.41	-	-	
3.2 グレア対策		**3.0**	0.29	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度	照度:852lx	**4.0**	0.15	-	-	
3.4 照明制御	自動照明制御	**5.0**	0.25	-	-	
4 空気質環境		**3.9**	0.25	-	-	**3.9**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		**3.6**	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.34	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	各種排気と異方位かつ6m以上離して設置	5.0	0.34	-	-	
4.3 運用管理		**4.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室の他空間との完全区画、専用の排気ファンの設置	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	**0.30**	**-**	**-**	**3.6**
1 機能性		**3.4**	0.40	-	-	**3.4**
1.1 機能性・使いやすさ		**2.0**	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.35	-	-	
1.2 心理性・快適性		**4.6**	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.8m、十分な窓の設置	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースの確保、自販機の設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		**4.0**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材の採用等、清掃のしやすさに配慮した設計	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃・メンテナンス作業に配慮した計画	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.7**	0.30	-	-	**3.7**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.4**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	免震装置の導入	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.8**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数の長い外装材の採用	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い材内装の採用	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材の使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**4.4**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	熱源の二重化、吊配管	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	汚水槽、非常用水栓の計画	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機の設置、受電設備の二重化、浸水対策	5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	通信手段の多様化、浸水対策等	5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率＜0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり	床荷重の割増	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	OAフロア、システム天井等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	OAフロア、システム天井等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.31	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	パースによる視点場からの景観検証等の取組み	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地場産材の採用、防犯性への配慮等	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.6
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能の高い建材の採用	3.7	0.19	-	-	3.7
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.72	3.8	0.51	-	-	3.8
4 効率的運用		3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価		3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	主要な用途別にエネルギー消費量を把握・分析可能な計画	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水器具の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		4.4	0.60	-	-	4.4
2.1 材料使用量の削減	免震構造の採用等	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	杭：高炉セメント	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床：ビニル床シート、OAフロア、天井：ロックウール化粧吸音板	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を4種類採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）	ODP=0、GWP＜50の断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	高効率な設備機器を採用し、CO2を低減	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮		2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	自主的な雨水排水不可低減への対策を行っている	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	適切な駐輪・駐車スペースの計画	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE®熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

熊本市中央区に建設される事務所ビルである。
事務室は2～13F、1Fには店舗、駐車場となる。

Q1 室内環境

・適切な照度の確保、自動照明制御により、室内の明るさや照明の制御性に配慮している。

Q2 サービス性能

・高い階高を確保し、空間のゆとりに配慮している。
・OAフロア、システム天井の採用により、設備配線の更新性に配慮している。
・耐用年数の長い配管・ダクト材を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

・パースを作成し、視点場からの良好な景観を検証している。
・地場産材を採用し、地域貢献に配慮している。

LR1 エネルギー

・主要な用途別にエネルギー消費量を把握・分析可能な計画とし、エネルギーの効率的な運用に配慮している。

LR2 資源・マテリアル

・節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。
・リサイクル材やユニット部材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮している。

LR3 敷地外環境

・十分なスペースの駐車・駐輪場を確保し、渋滞緩和に配慮した交通計画としている。
・深夜の減灯等、周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

その他

-

熊本県重点評価結果スコアシート　実施設計段階

建物名称	日本生命熊本ビル新築工事

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	92
重点事項	重点項目（配慮項目）	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				96.1	0.40	38.44
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.7	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	5.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				76.2	0.20	15.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	4.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				102.7	0.20	20.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数